

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 八児 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を上回った。特に「思考力、判断力、表現力等」を問う問題のうち、「読むこと」に関する内容の問題の正答率が高かった。一方、「話すこと」に関する内容の問題に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する問題 ・「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く問題	
	努力が必要な問題	・スライドを使ってどのように話しているかを説明したものとして適切なものを選択する問題 ・「しきりと」の意味として適切なものを選択する問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を上回った。特に「思考力、判断力、表現力等」を問う、記述式の問題で全国平均より高い正答率であった。一方で、素数を選んだり、相対度数を求めたりする「知識・技能」の問題で全国平均を下回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・A駅から60、0km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する問題 ・△ABCにおいて、∠Aの大きさが50°のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める問題	
	努力が必要な問題	・度数分布表から早退度数を求める問題 ・連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を上回った。特に「粒子」を柱とする領域に関する問題が高い正答率であった。そのほか、概ねどの問題も全国平均と同等か上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する問題 ・塩素の元素記号を記述する問題	
	努力が必要な問題	・生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
<p>全国平均を100としたときの本校の割合</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校での学習」についての各質問に対する肯定的な回答の割合は、概ね全国平均と同等である。一方、「家庭等での学習」については、全国平均を下回っている。家庭学習により意欲的に取り組むことができるようにする必要がある。</li> <li>・「自尊感情」や「学校の楽しさ」についての各質問に対する肯定的な回答の割合は、全国平均を上回っている。生徒同士や生徒と教師などが、それぞれよい関係を築くとともに、互いに認め合い、支え合う風土ができていく。</li> <li>・「読書」についての各質問に対する肯定的な回答の割合は、全国平均を大きく上回った。引き続き、朝読書や本校の特色ある取組を続けていく。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

3教科とも全体の正答率は全国平均を上回ったが、一部の基本的な知識の問題の正答率が低いことや、記述式の問題における無回答率が高いことなどが課題である。普段の授業において、基本的な内容の定着を図るとともに、自分で考えて「書く活動」を意図的に組み込み、考えて表現する力を育成していく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・学校からの各種通信や保護者懇談会等の様々な機会を通して、生活習慣の確立や家庭学習の習慣化について発信し続けていく。  
・計画的な家庭学習の定着について、学習計画表や生活記録ノート等を通して教師がアドバイスをするなど、きめ細かい指導を継続して行う。